

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語表現法
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『テスト式国語常識の総演習』(京都書房)、『国語表現準拠学習ノート』(京都書房)				
担当教員	外村 彰				
到達目標					
1. 漢字・仮名遣いなどが正しく使えること。 2. さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけること 3. 文章の組み立て、すなわち構成能力を身につける。 4. 実用的な文章を正しく書けるようにすること。 5. 文章の展開や、スピーチのこつを身につけること。 6. 社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書けるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることが適切にできる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができない
評価項目2	実用的な文章を正しく書くことが適切にできる		実用的な文章を正しく書くことができる		実用的な文章を正しく書くことができない
評価項目3	社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことが適切にできる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語を読む、書く、聞く、話すという四つの能力を身につけることは、人間力の形成のために必要である。それらの基礎能力、とりわけ語彙能力と文章表現能力の向上を目指すことを目的とする。				
授業の進め方・方法	講義・問題演習を基本とする。適宜課題提出も課す。				
注意点	積極的な授業参加、普段の課題内容を重視する。授業で進める範囲の半分は宿題とし、毎週テキストを回収して評価する				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、「国語常識の総演習」第1、2回	1. 「国語常識の総演習」の演習 漢字を読む力、書く力、語彙力、文章表現・韻文・文学史、文法 といった、国語表現に必要な基礎学力を体得する。	
		2週	「国語常識の総演習」第3、4回		
		3週	「国語常識の総演習」第5、6回		
		4週	「国語常識の総演習」第7、8回		
		5週	「国語常識の総演習」第9、10回		
		6週	「国語常識の総演習」第11、12回		
		7週	中間試験		
	8週	「国語表現 準拠学習ノート」I-1,2	2. 「国語表現準拠学習ノート」の演習 仮名遣い、敬語、悪文の推敲、類義語や慣用句、文章構成の基 文章を書く手順といった、表現の基本となる事項を体得する。		
	4thQ	9週	「国語表現 準拠学習ノート」I-3,4		
		10週	「国語表現 準拠学習ノート」I-5,6		
		11週	「国語表現 準拠学習ノート」I-7,8		
		12週	「国語表現 準拠学習ノート」II-5,6	3. 意見文、通信文、小論文の作成 「国語表現 準拠学習ノート」の「表現の実践」を参照しながら、 「ステージ2, 3」に相当する。意見文、通信文、小論文を作成する。 できれば「ステージ4」の設問にも取り組みたい。	
		13週	「国語表現 準拠学習ノート」II-10		
		14週	志望理由書・自己PR書		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	後1,後8,後12

			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	後1,後8,後12
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	後1,後8,後12
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	2	後1,後8,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0